



乗船レビュー②

宮崎カーフェリー

新造船初就航日の旅

どんな船にも、就航日がある——

今回は宮崎カーフェリー26年ぶりの新造船、
フェリーたちほの初就航日のレポートを緊急収録。

乗船日

2022年4月15日(金曜日)

フェリーたちほ

宮崎→神戸(瀬戸内海経由)

隣の県だけど遠いんだよ宮崎(本音)

宮崎カーフェリーの新造船については気になってはいたものの、いつ乗るかの予定の設定に悩んでいた。筆者は十分に住んでいるため、まず宮崎まで特急で移動してそこからフェリーに乗る形になる。新門司と違ってフェリーが安いわけでもないのので普段使いもしづらいのだ。そんなところ、ちょうど関西で4月16日に所用ができたため、せっかくだし初便を取っちゃうか! と思いついて予約してしまった。まあこういう機会でもないと思えないだろうと自分に言い聞かせる。また、宮崎県の県民割が大部分県を対象に拡大されたこともあり、前日出発して宮崎に1泊することにした。

いきなり第二基準航路

乗船前日の午前、急に宮崎カーフェリーから電話がかかってきた。台風の影響で瀬戸内海経由での運航になるため3時間ほど遅くなります。との連絡であった。

第二基準航路だ!!

説明すると、宮崎カーフェリーは四国の南を往く太平洋経由が所定航路だが、太平洋が荒れた際には出航後北に向かって豊後水道を通り瀬戸内海を経由していくルートも迂回ルートとして設定されていて、これを第二基準航路と呼んでいる。急いでいる人には申し訳ないが乗船時間は大きく伸びるので非常にお得な事態ではある。しかも瀬戸内海経由ということは来島海峡大橋・瀬戸大橋・明石海峡大橋通過のオマケも付いてくる。新造船の門出としてイレギュラーな事態は歓迎されないものであるが、これでこれで悪くない。

祝賀ムードのターミナル



乗船当日は県立図書館で用事を済ませたのち、ターミナル混雑を見越して連絡バスを使わず、近所のイオンモール宮崎からターミナルへ歩いた。バイパスを歩いて概ね15分程度で到着。手

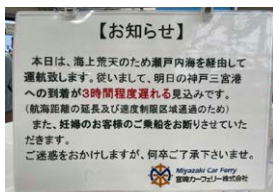
前に今日で引退したみやさきエクスプレスが停泊しており、地元の人々が何人も見に来ていた。そしてその後ろには今回乗る新造船、フェリーたちほが黙々とトラックを飲み込んでいる。

今回の新造船の特徴はなんといっても「ていげ」ファンネルであろう。そして前身である日本カーフェリー時代にあったトンビのマークを復活させた。これは日本神話の神武東征に登場する霊鳥「金鷄」をイメージしたものという。カッコいいではないか。

一通り眺めてターミナルに向かうと、ターミナルには各所からのお祝いの献花がもりもり飾られている。そして人でごった返していた。完全にキャパオーバーしとるが大丈夫か。乗船名簿が無くてどこ行きやいいんだと右往左往していると、どうも入口のところで検温を兼ねた受付があった模様。そこでWEB予約と伝え



フェリーたちほの前には今日最終運航だったみやさきエクスプレスの姿



ピカピカの船内へ



乗船口を登り、船内エスカレーターで上るとまずは3階のエントランスがお出迎え。2階分吹き抜けの小規模なものではあるが、階段の途中にステージが作られた変わったつくりとなっている。周辺にはインフォメーション、レストラン、浴場などの一通りのメイン施設がそろっている。この船はここから前後の方向に客室が伸びるタイプとなっている。客室通路にはしゃれたランプがついている、なんかこれどこかで見たような…？



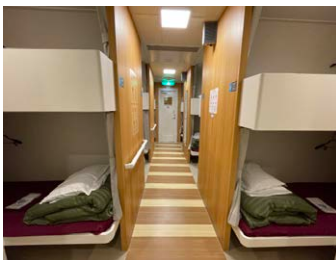
て無事乗船名簿 GET、次に自動発券機で無事乗船券を GET した。さらに乗船記念品の詰め合わせもいただいた。

ちょうど船の前で就航式をやっていたので後から眺める。社長はもとより宮崎市長やJAの偉い人などが式辞を述べている最中であった。そう、今回の新造船は宮崎県と市が45億の出資をしているのだ。県議会ではその必要性について紛糾した経緯もあり一筋縄ではいかなかった。おそらく説得できなかったら新造船どころか航路ごとなくなっていたことだろう。物流面でも観光面でも宮崎県経済の「生命線」として、改めて様々な期待が込められた就航となることを実感する。

えらいひとのテープカットも終わり、「みやさき犬」が急に踊りだした。というかよく見たら乗船開始しとるやんけ。早速船内に突入じやい！



エントランス全景。階段の中央はステージで、生演奏用の楽器がスタンバイしている。



名前の通りのドミトリー



パケッジルーム。夜間は施錠される。



ツーリスト

とりあえず自分の客室へ、今回はドミトリーとした。ドミトリーは3階と4階に広がり実に定員の半分近くを占める。要は二段ベッド寝台なのだが、最近流行りのタイプではなく普通に二段ベッド型のタイプである。正直なんでいまどきこの形にしたんだろうと首をかしげるところではある。

中はシンプルにコンセント付きの照明とエアコンの吹き出し口、そしてハンガーのみ。正直メガネなどのおける小物置きくらいは欲しいところ。

荷物にはベッド下に入れてくださいという形のようだ(上段の人は?) 大型荷物については後から気づいたが、ドミトリーの客室入口に大型荷物置き場(パケッジルーム)が用意してあった。ただ、夜間は施錠されるため少し使い勝手は悪い。船内4か所に設けられているが、今回は案内不足なのか誰も利用者がいなかったようだ。

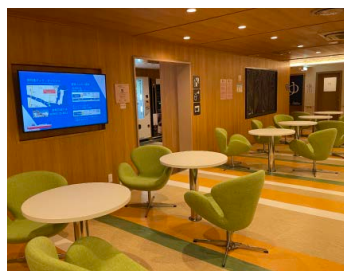
3階ドミトリーの奥にはひっそりと大部屋のツーリスト(2等席)も存在している。前の船では172席とそれなりのスペースを占めていたが、新造船ではわずか30席となっている。



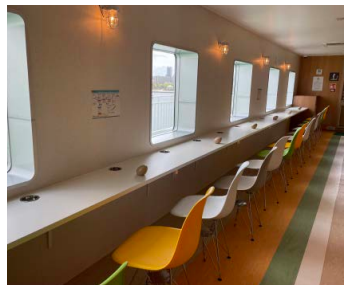
みやざきエクスプレスに見送られ出航！

19時10分。出航イベントで神楽の太鼓が鳴り響く中、騒がしく出航となった。船上の人も陸で見送りの人も、皆サイリウムを振ってフェリー-たちへの出航を見届ける。ふと横から別の船の汽笛が聞こえてきた。なんと隣に停泊していたみやざきエクスプレスが汽笛を鳴らし、こちらを見送ってくれたのだ。フェリー-たちも続けて汽笛を返す。新旧パトタッチの風景は初めて見たが、なかなか感動する風景であった。

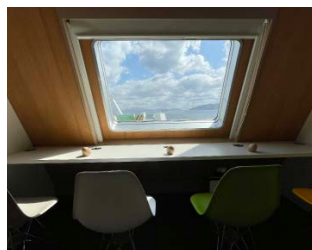
パブリックスペースを確認



通路に設けられた後部展望ラウンジ



通路に設けられた後部展望ラウンジ



4階展望サロンと3階展望サロンの眺め

パブリックスペースはエントランス周辺がメインでエントランスの階段をぐるっと取り囲む形に椅子が用意されている。3階は乗船口の反対側にテレビのあるラウンジがある。4階にはキッズルームとゲームコーナーも設置されている。

客室に隣接した後部デッキの手前にも展望ラウンジがあり、ここにはテーブルの下に電源も用意されている。

ここでふと思い出したのだが、この船の作りは以前乗ったシルバーフェリーのシルバーティアラにそっくりだ。それもそのはず、どちらも内海造船瀬戸田工場製であった。

パブリックスペースとしてはもうひとつ、最前方に展望サロンもある。しかしこの展望サロン、なぜか左舷側と右舷側でぶった切られている。双方を行き来するには一度中央のエントランスを経由せねばならない。サロンの中も中途半端な広さで数人しか入れないし、椅子のないところもある。そして3階のサロンは目の前にドデンと機械が鎮座している。前が見えねえ…

船内給食事情



晩飯のバイキングは1600円。名門大洋より上、フェリー-さんふらわあよりは下というところの値段設定だが、クオリティ的には品数の少なめのフェリー-さんふらわあという印象。宮崎県産の食材で宮崎にちなんだ料理が食べられるのが売りのようだ。レストランのスペースは前の船よりは大きくなったとはいえ、ほかの船と比べると小さい感じもするが、需

要的にこんなもので十分なのであろう。なお宮崎カーフェリーでは貨物ドライバー用レストランは別に用意されている。料理を取っていく導線が1列しかないのもちょっと時間がかかるのが難点。あとチキン南蛮にタルタルをかけ忘れる事故が発生したのでなんか書いといて欲しい。



食品用自販機

売店はそんなに広くはなく、扱うものは土産物がメインで主食となるものはあまりおいていない。レストランを利用しない場合はあらかじめ食べ物を購入したうえで乗船の方がよいだろう。一応自販機コーナーに食べ物も置いてあるが、カップ麺とおつまみばかりであった。なお定番であったインフォメーションでの朝コーヒーの販売は新造船でも続いているが、

自販機コーナーにコーヒー専用の自販機も置いている。

あと注意が必要なのが、前の船と同じで船内に給湯器があるのに紙カップをおいていない。どこにも書いていなかったが売店で10円で購入可能はずである。この辺いい加減サービス化してもよさそうなのであるが…

就航記念イベント



就航記念ということで早速エントランスのステージを活用した生演奏が行われていた。結構長いこと行われており、出航後から21時くらいまで続いていた。また、瀬戸内海経由になった影響か朝にも演奏は行われた。

朝は6時35分頃に瀬戸大橋を、9時50分頃に明石海峡大橋を通過。多くの乗客がデッキでベストショットを取るべく右往左往していた。また、神戸港入港前には神戸市消防局水上消防署の消防艇による放水歓迎が行われた。

本来は7時半到着なので朝起きたらバタバタと降りる支度になるが、だいぶゆっくりと過ごせたのはありがたかった。もともと異常時にしか乗れない航路なので、観光客が多い時期にはイベント的に瀬戸内海経由の運航を行っても良いような気はする。

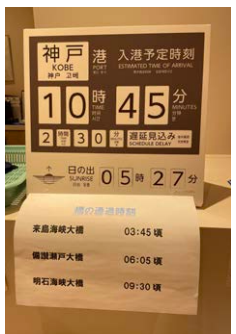
船内浴室とシャワールーム



風呂には21時台に入ろうとしたところ満室状態であった。しばらく様子を見てみたが閉鎖の22時近くになっても変わらなかったの、あえて隣のシャワールームを使ってみた。シャワールームながらきちんと洗面台が用意されており、シャワー室も脱衣場部分としっかり区分けされたもので、広さもちゃんと確保されていてとても快適に利用できた。

浴室は翌朝に覗いてみたが、まず入ると洗面台があり、隣に脱衣場があり不思議な構造である。中も洗い場と浴槽が完全に区分けされており、そういえばシルバートピアもこんな構造だったなと思い出す。シャワーが浴槽まで飛ぶ事故も起きないので悪くはない。

神戸到着(3時間半遅れ)



結局神戸港入港は10時40分頃、下船は11時となった。イレギュラーにより実に15時間の乗船であったが、各種イベントなどもあり退屈さは感じずあつという間であった。とはいえ本来は7時半到着であり、この後がきっちり決まっていれば予定崩壊としか言いようがない状況である。あらかじめ遅れる可能性も考えて予定を練っておくのが無難であろう。



ホンネの話

さて、ここまでは新造船に乗って興奮していた状況で書いたものである。ここからは帰宅して冷静になってから書いた。

この船は前の船に比べればものすごく奇麗になったし今の時代に合わせたものになっている。ただ、他航路の最近の船と比べると、まだまだ頑張れたのでは？ と思うところもある。

特に今回自分の使用したドミトリーの話。どうも設計が最近の船と比べると前世代的と感じる。キャリーケース非対応のベッド周辺、ベッド間隔も狭いため圧迫感も強い。中に小物置き的なものがないのもマイナスである。一般的な上下段を互い違いにした二段ベッドでよかったように思うが、コスト的に厳しかったのであろうか。おそらく定員も多いので普段は4人スペースを1人で使うような運用で行くつもりであろうが、同時期デビューの名門大洋フェリーに手元にキャリーケース置き場が用意されたのとは対照的である。まあ快適に過ごしたいなら個室へどうぞ、というのはその通りであるのだが。(金で解決!)

報道によると今回の新船には335人が乗船したようだ。まだまだ定員には余裕があるが、これ以上人が増えてくると船内は窮屈になってくる予感はある。確かに前の船よりは幾分か余裕が持たされているが、ほかの航路と比べればまだまだのところは見受けられるのが残念な点と感じた。

宮崎カーフェリーについては、県や市を含む地元が宮崎経済のためになくてはならないものとして支援を行い、新造船の導入に至った経緯がある。今までこのくらいしか乗ってなかったからいいやではなく、より乗客を増やしていく努力や施策も必要になっていくだろう。おりしも新造船就航の報道で大きく話題になっている。初見乗船からリピーターになっていただくべく、常にサービスを向上させていく意識が求められよう。

せっかくの新造船に辛口レビューとなってしまったが、個室を取れば基本的に不満はないはずである。これまでの状況を考えれば、新造船就航でようやくスタートラインに立ったともいえる。宮崎カーフェリーのこれからに期待していきたい。

